

学校校舎 耐震化工事



学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であり、地域住民にとっては学習・文化・スポーツなどに利用される公共施設として、また災害発生時の応急避難場所として重要な役割を担っています。

本市の市立学校施設は、昭和30年代後半から昭和50年代にかけての児童生徒急増期に多くの校舎・体育館が建築され、新耐震基準施行(昭和56年)以前の校舎・体育館が全体に占める割合は8割を超えており、その耐震性の確保が課題となっています。

このような状況を踏まえ、児童生徒等の安全を守り、良好な教育環境の確保を図るとともに地域住民の安全と安心の確保に資するため、学校施設の耐震化を計画的に進めていく必要があります。

市立学校施設の耐震化については、全体の事業量を把握し、具体的な目標と期間を設定した計画に従って、耐震化を推進しています。



尼崎市教育委員会
事務局 学校耐震化担当
森省二課長、渋谷俊典係長に
お話を伺いました。

学校施設は地域住民にとって学習だけでなく公共施設として、また災害発生時の応急避難場所として重要な役割を担っています。

今回、同時に多くの工事を手掛けていますが、地域のみなさんには大変ご協力いただいているとのことでした。

子どもたちも体育の授業など近隣校へ移動しますが、それも学校間の協力があって助かっています。

耐震化の手法は耐震補強と改築があり、工期及び事業費を圧縮するため、本計画においては耐震補強を前提で進めていきますが、耐震診断の結果、老朽化が著しく耐震補強が適切でない判断される場合など必要やむを得ない場合に限り、改築を行っていきます。



大庄北中学校（北棟 改築）



南武庫之荘中学校（北棟 補強）

工事の工程を授業で活用する学校もあります。建て替える学校の屋上には太陽光発電、屋上緑化、展望スペースなどが取り入れられています。

解体工事の際は、騒音計、震動計が設置され道行く人たちにも目で数値が分かります。